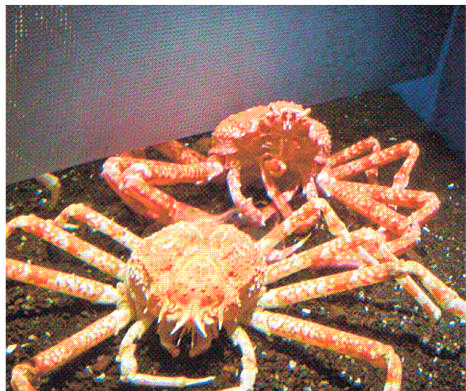




㊦脱皮が始まったばかりのタカアシガニ。甲羅の後ろから脱げていく㊦脱皮直後のタカアシガニ（後方）。手前にあるのが脱皮後の殻。もう1匹いるように見えるほどきれい

タカアシガニ

学名 *Macrocheira kaempferi*

分類 クモガニ科タカアシガニ属
特徴 成長するとあしを上げた長さが3尺以上になるといわれる、世界最大のカニ。甲羅の横幅は最大で40センチになる。はさみあしは雄の方が大きくなる。日本近海の、水深30～400メートルの砂底や砂泥底に生息する。鹿児島県では近海で行われる深海底引き網漁（タカエビ漁）などでかかることがある。

脱皮繰り返し成長

カニやエビなどの甲殻類は、硬い殻で体が包まれています。大きく成長するためには、この殻を脱ぐ脱皮を繰り返さなければなりません。他に脱皮する生き物は、

エビ、カニと同じ節足動物の昆虫やクモ、爬虫類、両生類などがいます。いずれも成長とともに、体を覆う皮がまとまってはがれます。

カニも脱皮して成長します。タカアシガニなどの大型甲殻類は、体が小さいうちは何度も脱皮を繰り返しませんが、大きくなるにつれて脱皮回数も減ってきます。

かごしま水族館で飼育するタカアシガニを観察すると、脱皮前は餌を食べなくなり、ほとんど動かなくなります。

脱皮は甲羅の後ろの方から始まり、終わるまで6～8時間かかります。新しい殻はまだ軟らかく、敵に襲われると体を守るすべがありません。脱皮は命懸けなのです。殻が硬くなるまでに1時間ほどかかり、やっと歩けるようになります。

脱皮を終えたばかりのタカアシガニは、とても鮮やかな赤い色をしています。脱ぎ捨てられた殻は、形が崩れることなく、もう1匹別にいるように見えるほどです。

水族館3階の「かごしまの深海」コーナーでタカアシガニを展示しています。タイミングが合えば、脱皮する様子を見ることができるとかもしれません。

（展示課海獣展示係長・吉田明彦）

おもしろ生き物図鑑
かごしま水族館から